

光 学 天 文 連 絡 会

GROUP OF OPTICAL AND INFRARED ASTRONOMERS (GOPIRA)

会 報

No.31

1984-6-20

光学天文連絡会事務局（東京大学理学部天文学教室）発行

第29回運営委員会記録

日時・場所：1984年5月16日(水) 13:30-18:00 東京大学理学部天文学教室会議室
出席者：委員 小暮, 西村, 寿岳, 兼古, 清水, 若松, 前原, 磯部, 岡村, 田中, 安藤,

舞原, 小平 (欠席：山下, 田村)

委員外 中桐, 関, 富田, 小倉, 尾中

1. 報告 (詳細については本会報6頁参照)

・望遠鏡 WG (磯部, 舞原)

WGの機能と変更することになり(会報No.30参照), その線に沿って, 東京天文台WGの活動報告, 京都のミグループ(宇宙, 物理, 天文)内での議論の報告などの資料とWGメンバーに流している。メンバー外の人でも磯部宛ハガキで申し込めば資料が入ります。京都グループでは1ヶ月に1回程度集って, 東京天文台WGの資料の検討や, 独自調査を行っている(資料あり)。会報No.30に紹介した各サブグループは検討を進めているが, 若干予定より遅れている。

・体制 WG (若松)

本日午前中に会合を持った。2-3年の移行措置を伴うレジリー制の導入及びユーザーの意見と聞くシステム(ユーザーズコミティ等)の確立の2点について, 具作案を検討中である。まずWGで0次案をまとめ, 秋に予定されている各種シンポジウムで検討して載せ, 成案として運営委員長に提出, これを受けて委員長から東京天文台に回すという手続きを考えている。

議論：60年度のプログラム編成には間に合わないが, あまりゆっくりしていると61年度にも間に合わなくなる。12月頃には運営委で成案を決める必要がある。

・国際協力 WG (寿岳)

3月の作成会の英文レジュメを作成し, アリゾナ大学とハワイ大学へ送付した。これと今後必要なら色々の場所に配布して良いか? → O.K.

海外観測の調査はまとまりつつある(42通の回答を得ている)。82年度から急激に増えて年間約10件ある。資料は東京天文台の資料棚に保管してある。海外学術調査は, 59年度は5パーティがハワイに観測に行く。60年度はエジプトのヘルワン天文台への調査と申請する。毎年枠を確保するようにしたい。

議論：アフリカのSAAOの74インチ, テスカンパナスにあるDDOの60cmも決ってみたいがとの誘いあり。ハワイのサイトテストの問題は真剣に考える必要あり。現地での観測あるいはKPNOでデータ解析をするための人を派遣する財源はないが。NNTTプロジェクトでやっているサイトテストは59, 60年度である。サイトテストについて, 交渉の窓口, 具体的作業等の統括と責任者を決めたい。山崎, 磯部, 石田, 寿岳の各氏で相談して決めて欲しい。当面はアメリカ側とinformalな懇談をすることから始めることになりそう。調査費で外国旅費が出せるのか調査して貰っている。

2. 活動方針案

委員長の用意した草案について議論した。総会には委員長は出席できないので、代理が読み上げるということにする。

3. 総会準備

- 会務報告 (前原)
 - 活動報告 (磯部)
 - WG報告 望遠鏡 (磯部)
 - 体制 (石田)
 - 国際協力 (寿岳)
 - 決議案 (寿岳)
 - 活動方針案 (舞原)
- 印については資料と用意し、会場で配布する。
担当者として左記のように決定した。
議長は平田龍幸氏を推薦することとした。
書記は、新事務局 (田中、辰中、安藤) が担当することとした。

4. 会費値上げについて

事務局より背景説明があり、いくつかの議論があった。結局、一般2000円、学生1000円 (現行通り) という提議を行うことにした。学生の身分確認は自己申告とすることにした。会報の発行・送付の費用が賄えるように、上記会費の根拠である。

5. 決議文のとり扱いについて

「大型光学赤外線望遠鏡の建設推進について」(本会報13頁)の文を総会に、「決議」としてお読みするが、「決意」といはいは「レジュメ」等の他の形とするが議論した。→「決議」とする。文案の具体的な表現について延々と議論した。まだ口角流涙の場面も見られた。

6. その他

次回は7月18日(水)の予定。ただし議題がなければ中止。
(文責 岡村定矩、小暮智一)

** 委員会 **

運営委員:

安藤、磯部、岡村、兼古、小暮 (委員長)、小平、清水、寿岳、田中、田村、西村、舞原、前原、山下、若松

望遠鏡WG:

磯部 (O)、岡村、兼古、中井、野口 (邦)、平田、舞原 (O)、山崎

体制WG:

石田 (O)、大谷、小倉、関、西村、前原、山下、若松 (O)

国際協力WG:

家、市川、奥田、北村、小平、佐藤 (O)、寿岳 (O)、松本

50音順、(O)は世話人

光学天文連絡会第7回総会記録

日時: 1984年5月23日 (水) 19:00 - 20:43

場所: 調布市福祉会館小ホール

出席者: 46名

議長: 平田龍幸

議事:

1. 議長選出 平田龍幸

2. 会務報告 (前原) 資料参照

新運営委員 15名 選挙結果通り承認。

新事務局 承認

会計報告 承認

3. 活動報告 (磯部) 資料参照

a. 望遠鏡 WG 報告 (磯部)

WGメンバーの大幅改組 (3月), 4つのサブWG (広視野, 高分散分光, 赤外, 技術) の設置, 東京天文台内望遠鏡 WG 組みの配布, F/2, 7.5m SDT 模型製作 (嶋, 園田), (資料参照)

平田: ハワイ側の反応はどうか。

磯部: ハワイ側は好意的。実務レベルの作業について調査中。今年中にハワイと Memory of Understanding を交す時期に来ていると思う。

b. 体制 WG (石田)

岡山・木曾の観測プログラムシステムの検討, O決案の提案予定。(資料参照)

c. 国際協力 WG (舞岳)

我が国の海外観測の実態調査。(資料参照)

d. 京都グループによる検討会発足 (舞原, 平田)

4月1日のベースで東京でのWGの報告, 内題等の study を行っている。

4. 活動方針案 (舞原) 資料参照

討論

成相: 補助望遠鏡の検討とはどういうことか。

磯部: JNLT完成までのままだまいのか, もし作るならJNLTの補助なのか, 独立という問題。海外中口径はどうあるのかという問題とも関係している。

成相: この会は任意団体であり, そこで出来ないこと (技術開発等の具体作業) が書いてあるのでは? 又仕様決定は会の性格として出来ないのではないか。

磯部: その方向で努力しようという趣意であり, 推進するという表現になっている。

了承 承認 (拍手)

。決議案(寿岳) 資料参照

討論

蘭池: 宇宙の進化やくと進化がぬけている理由は? 将来の超大型のためにとてあるのか。

磯部: 万望望遠鏡であり, 主たる観測, 研究対象をわいた。

寿岳: 個人的な意見だが, この望遠鏡で確実に出来ることを書いた。

岡村: 何のために決議するの。

寿岳: 我々の決意をPRし, 知ってもらうため。

5. 会費改訂(前原)

会費は大部分, 会報発行, 発送に使われているが, 1回, 発行・発送入れて 35000円ぐらいかかり, 財源不足。健全な運営のために以下のような値上げ案を提案する。

一般会員 2000円/年

学生会員 1000円/年 (据え置)

承く 記忍(柏寺)

(文責・安藤祐康)

光学天文連絡会会則

定 義 本会は、光学・赤外天文学に関心のある研究者の自主的組織である。

事 業 本会は、光学・赤外天文学の発展を目的として、そのために必要な各種計画の推進、研究会の主催等を行なう。

会 員 会員は、個人加入とする。

会員は、会の目的に賛同し、会費を納入する。

本会は、会員の総会をもつ。

運 営 会員の互選によって運営委員を選出する。

運営委員会の委員長は、本会を代表する。

運営委員の任期は1年とする。

専門委 運営委員会は、若干の専門委員会をおき、委員を指名する。

事務局 運営委員会は、事務局をおく。

事務局は、会報を発行し、会員事務を行なう。

発 足 昭和55年12月1日

光学天文連絡会第7回総会 会務報告

1. 総会(第5回) 1983年5月18日(調布市福祉会館小ホール)
総会(第6回) 7月13日(上野・国立科学博物館講堂)
懇談会 10月12日(水戸市市民会館会議室)

2. 運営委員会

- 第22回: 5月9日 第26回: 9月27日
第23回: 5月18日 第27回: 1984年3月11日
第24回: 7月11日 第28回: 3月14日
第25回: 7月13日 第29回: 5月16日

3. Working Group

望遠鏡WG, 体制WG, 国際協力WG, 海外中口径WG

4. シンポジウム

- (1) 光天連シンポジウム 7月12, 13日 上野・国立科学博物館
計画の再検討 → 海外・大型(集録あり)
(2) 大口径望遠鏡技術検討会 11月16, 17, 18日 東京大学・天文学教室
MMT/SDT(会報No.27) 宇宙科学研究所
(3) 望遠鏡計画案作成会 3月12, 13, 14日 東京大学・物理学教室
高解像力, 広視野(会報No.30)

5. 会報 No. 23-30 計8号発行

6. 運営委員選挙 会員名簿作製(1984年1月28日現在)

7. 会計報告 (1984年5月21日現在)

収入の部

前年度よりの繰越	8,253円
1982年度会費(27名分)	27,000円
1983年度会費(169名分)	169,000円
1984年度会費前受(15名分)	15,000円
収入合計	219,253円

支出の部

振替口座加入料	50円
振替口座払込料	100円
会場使用謝礼	2,990円
会報印刷費(No.23-25)	18,250円
会報印刷代(No.26-29)	86,400円
名簿印刷代	19,000円
会報送料	88,705円
次年度への繰越	3,758円
支出合計	219,253円

昭和58年度活動報告

運営委員長 小暮 智一

1. 全体的総括

第6回臨時総会(昭和58年7月13日)以後の光天連の活動について報告する。

この臨時総会は海外大型望遠鏡計画推進を軸とする基本方針が合意に達し、光学天文連絡会として新しい決意のもとに活動を再開する門出の総会であった。その後、東京天文台のメンバーを中心に全国関連研究者の協力の下に計画案は次々に具体化にすすんでいる。当初の活動目標に対し、ほぼ順調な進行状況である。

国際協力の面でも連絡、視測卒業等も順調な進行といえる。

また、将来の共同利用研究体制の検討とも関連し、岡山、木曾のプログラム編成についても検討がすすんだ。

京都の中口径赤外線望遠鏡のハワイ設置計画については計画案全体の進行状況とも関係し、しばらく検討を休止するという状態になっている。

2. 大型望遠鏡計画案の具体化作業

前臨時総会の基本方針は可能な限り大口径の望遠鏡をめざし、海外設置をむけて努力するという抽象的なものであったので、その具体化の作業が望遠鏡と設置場所の両面から進められた。

(1) 望遠鏡の基本構想

当初、望遠鏡のタイプとしてMMT(4×3.5m)とSDT(4m級)とが検討の中心となり、望遠鏡両方の準備に基いて11月16-18日に技術検討会(世話人:磯部・舞原)が開かれた。Single dishの口径を4m級とする限りMMTの方が望遠鏡としては有効であるという印象が強かったが、MMTの技術的複雑さ、赤外、広視野等に問題が残った。両タイプについては84年3月までに決断するという目標で、そのために必要な検討項目をあげ、分担してその検討に入った。また、MMTの実際の稼働状況を見るために、小平、磯部は相ついでMt. Hopkinsを訪問した。

84年1月に入って、5m級のsingle dishの可能性がメーカーからの回答などによって急速に高まり、それとふまえてPre-study group(磯部、舞原、安藤、岡村)に予備的検討を依頼した。3月の検討会では第1回望遠鏡計画案作成会(世話人:磯部、舞原、岡村)と命名し、計画案の具体化作業の第一歩であることを明確にした。

Pre-study groupは4×3.5m MMTと5m SDTとを比較し、両タイプの長短所の比較表からは甲乙つけがたいものの、より大口径への進展の可能性に力点を置いて口径5m以上のSDTをとるべきことを答申した。3月の作成会では、さらにアリゾナ大学との協力の下に、7.5m SDTにすすむべきであるという意見も有力になり、作成会の結論としては高解像力、赤外線、広視野に特色をもつ5m以上7.5mまでの、できる限り大型の望遠鏡を目的とすることとなった。現在、口径5.5mと7.5m SDTについて東京天文台メンバーを中心に検討がすすんでいる。

(2) 設置場所

ハワイ大学、ハワイ州は以前から日本の望遠鏡設置を歓迎する意向であったが、方針の変更など日本側からの対応に混乱を招くおそれがあったため、12月に小暮、磯部はMKO、UHを訪問し、MKO所長代理のS. Wolffに光天連の基本構想を説明し、協力を求めた。84年2月に舞原はMKO Users Meetingに出席、再度説明を行った。ハワイ側は受け入れに積極的であり、MMTかSDTかに関心をもったので、3月の第1回作成会での議論をWolffあてtelexで通知した。また、5月には新所長のD. Hallあて基本構想のレジュメの手紙を送った。

なお、マウナケア山頂科学保護区の総合開発計画書をはじめとする関係文書の翻訳、収集、整理については成相と世話人に全力的協力の下に著しく進歩した。

(3) 天文学研究連絡委員会における審議

この間に天文研連は83年9月27日(第12期第5回)と、84年3月21日(同第6回)の2回開催され、光天連よりは小暮、小平、舞原の3名が委員として出席している。両会合とも、この3名によって経過及び状況報告を行った。天文研連は大型光学赤外線望遠鏡の建設が日本の天文学において緊急に推進すべき課題であることをよく認識しており、その線に沿って多くの議論があり、また、光天連に対する厳しい注文が出されたりしている。特に3月の研連委の議論(会報No.30)は十分尊重すべきである。

3. 研究体制に関する討議

本年度の研究体制WGにおける中心課題は過密になった岡山天体物理観測所のプログラム編成について改善の方法を検討するところにあった。これは岡山、木曾の有効利用と、将来の大型望遠鏡共同利用を見通した検討課題であるが、大プロジェクト制、レフェリー制、年間プログラム編成の見直し、機器利用の活性化、などの問題を中心に検討がすすんでいる。

4. 海外観測、国際交流の進展

国際協力WGは近年の国外の望遠鏡を用いる観測(個人的、グループあるいは海外学術調査など)の事例と参加者の増大に力点が置かれ、また、将来の進展への基礎資料として、舞原、佐藤が中心となって過去10年間に実施した海外天文観測のデータの収集を行った。収集された資料は東京天文台に保管され、一般に供覧される。

JNLTT計画に関する国際研究集会等における報告の機会も増加しつつある。

望遠鏡WG活動報告

昭和58年度には望遠鏡WGとしては、8月8日に一回会合を開いたのみである。その時には7月の将来計画シンポジウムに提出された鏡材等に関するデータの整理と確認が行われた。それ以後は大部分のWGのメンバーが東京に集中していたし、ひんぱんに会合を開く必要があったので、東京天文台有志を中心とした東京天文台望遠鏡WGで毎週作業が行われ(会報30号19頁参照)、光天連望遠鏡WGメンバーにはそれを報告し、feed backをかけるという方法で行われた。

望遠鏡WGを中心として、11月に大口径技術検討会(会報27号1頁参照)、3月に望遠鏡計画案作成会(会報30号1頁参照)を開き、その準備作業なども行い、望遠鏡としての一応の会意できる案を作り上げることができた。

3月14日の運営委員会において望遠鏡WGの性格についての議論があり、会報30号13頁にあるような変え方で新しく8人のメンバーが選ばれた。

望遠鏡WGの下に、以下に示す四つのサブグループが作られ詳細な検討が行われている。

(文責:磯部)

7.5m望遠鏡検討サブグループ報告

東京天文台望遠鏡WGを中心として、この検討を行っている。鏡材の入手に関し、アリゾナ大学との国際協力によって7.5mハニカム鏡の製作研磨、支持機構開発の可能性をさぐっている。また、ソリッドのメスカス鏡に関しては製作費に関する情報を手に入れた。主鏡の支持に関しては、たわみの計算を始めた所である。7.5m鏡を使った時の望遠鏡全体の重さの割合の計算が行われている。F/2などの光学系の検討も始まった。

(文責:磯部)

分光サブグループ中間報告

ワークショップ 1984年5月17日 10:00-13:00

出席者 安藤・西村・野口・前原・川上・田中・山崎・辻・磯部・清水

次の報告が行われ学問的要請、それに対応する設計上の問題、検出器等の問題点等が議論された。

1. 低分散分光(前原) コメント(山崎)
2. フーリエ分光(辻) コメント(田中)
3. エシェル分光及びファブリ・ペロ分光(安藤)

4. PIAS(野口)

5. CCD(川上)

上記各問題について報告者を中心に今後さらに具体的な検討を進めることになった。

(辻)

赤外サブグループ報告

1. 世話人: 舞原、平田(会報No.30参照)

2. これまで「赤外性能の検討サブグループ」としての独立したmeetingは行ってないが、京都での「JNLTに関する意見交換会」で若干の検討を進めてきている。

3. イメージサイズ・限界等級等の関係について(口径5mの場合;以下の議論は口径にあまり依らない)、代表的に2 μ mと10 μ mを考える。

・2 μ m(K-band)では、Field 10"以上でbackground noise limited
10"以下はdet. noise limited(約1000 photons/ $\sqrt{\text{Hz}}$)

・10 μ m(N-band)では、Field 0.5"以上でbackground noise limited
(detectorのnoise NEP=1 $\times 10^{-15}$ W $\cdot$ Hz $^{1/2}$ として)

(注)分光観測では、NEP=1 $\times 10^{-16}$ W $\cdot$ Hz $^{1/2}$ が可。その時1"が限界

4. 望遠鏡のemissivityについて

・比較的広帯域の測光・イメージングでは、望遠鏡のemissivityを小さくする必要がある。(emissivityの定義: T=273K blackbody放射に対するbackground放射の比)

・例: IRTF $\epsilon \approx 0.08$ [実測]; UKIRT $\epsilon \approx 0.07$ [目標]; UKIRT $\epsilon \approx 0.15$ [Cass.のdichroic mirror使用時]

5. IRCCDカメラについて

・想定する検出器 1~5 μ m: InSb, 2.5~20 μ m: Si:Im, Si:Ga, Si:As等

・Pixel size $\otimes$ Array 50 μ m $\times$ 50 μ m~80 μ m $\times$ 80 μ m $\otimes$ 100 $\times$ 100~256 $\times$ 256

・Optics a)高分解能タイプ $\left\{ \begin{array}{l} 1 \text{ pixel} = 0.1'' \\ 256 \times 256 \text{ elements} = 23'' \times 23'' \end{array} \right\} \begin{array}{l} D_i = 7.5 \text{ m} \\ F \text{ 比 } 15 \text{ 相当} \end{array}$

b)広視野タイプ $\left\{ \begin{array}{l} 1 \text{ pixel} = 0.23'' \\ 256 \times 256 \text{ elements} = 60'' \times 60'' \end{array} \right\} \begin{array}{l} D_i = 7.5 \text{ m} \\ F \text{ 比 } 6.5 \text{ 相当} \end{array}$

従って、通常のCassegrain/Nasmyth F/30~60 Σ 、LN $_2$ /LHe冷却系内でF変換可能なOpticsを必要とする。

* IR性能・焦点面装置については今後も検討を進め適当な機会に報告する。

(文責:舞原)

左視野検討サブグループ検討経過報告

1. これまでに下記2回の会合を行った。

第1回：1984年3月29-31日 於：木曾観測所

参加者：若松、前原、渡部、佐々木、小倉、谷口、浅田、岡村

第2回：1984年4月14日 於：東大理天文学教室

参加者：前原、佐々木、山縣、小倉、西川、若松、兼古、谷口、浅田、岡村

2. 上記会合に於て検討項目を整理・整理して議論した。各項目に対して分担者を決め、各自がレポートを書き、それを世話人（若松・岡村）がまとめて、光天望遠鏡WGに提出するという作業予定を諒承した。

3. レポートの内容と担当者は次のように予定である。

(1) 左視野の意義 — 天文学的要請 — (全量)

(2) NNTT, TMT etc の仕様 (渡部)

(3) 焦点距離について (岡村、兼古)

(4) 撮像観測 — CCDと写真 — (佐々木)

(5) グリズム (小倉)

(6) メテ-サスペクトログラフ (岡村)

(7) Fabry-Perot 分光器 (前原)

(8) Ritchey-Chretien 焦点利用の現状 (谷口)

作業は順調に進んでいる。5月末までにレポートを回収、7月初旬に世話人がまとめ、これを再度全量に回覧して修正の上、6月末までに光天望遠鏡WGに提出する予定である。

(1984.5.21 岡村記)

昭和58年度 国際協力WG活動報告

本年度には過去10年間にわたる天文関係の海外観測の実績を調査した。現在までに42件の報告があり、その内訳は 光25件、赤外15件、電波1件、紫外1件である。光天連の活動状況を海外関係機関に周知してもらうため、3月の望遠鏡計画案作成会のサマリーをハワイ大学及びアリゾナ大学の関係者に連絡した。

(文責：寿岳)

1. 低分散分光 (前原)

2. フーリエ分光 (山)

3. エネルギ分光及びファブリ-ペロ分光 (前原)

体制WG会合メモ

日時：1984年5月16日 11時30分-13時20分

出席者：関宗蔵、小倉勝男、前原英夫、西村史郎、若松謙一、(他数名の運営委員)

議 事：岡山・木曾の観測プログラムの編成方法の検討。

・若松から以下の報告を行なった。

1) 第28回運営委員から体制WGの本年の大きな課題として、表記の事が果せられた。

2) この問題に関する当WGの過去2年間の経過報告

(内容は会報No.30, P17と同様のこと)

・前回のWGで、宿題となった具体案について、石田と若松で作ったレフェリー制を導入に関する第0次案の紹介があった。

1) レフェリー制を導入する。

2) レフェリーは、各ラン毎に、全マのプロポーザルについて評価を行なう。

3) 東京天文台は、それを参考に、プログラムを編成する。

4) 従来のプログラム委員会は、これまで通り存続。

5) レフェリーの評点・コメントは、プロポーザーに報告をする。

6) 観測時間をもらえなかったプロポーザルについては、プロポーザーが諸研究会、その研究意義を十分説明する機会が与えられる。その討議結果によっては、次年度以降に観測時間を確保できるであろう。

7) 実施するにあたっては、当面これまでの観測の実績を十分配慮する。

・以上の案について、討議を行ない次のような意見が出た。

・レフェリー制導入については、原則的には賛成である。

・しかし、レフェリー制導入の目的を、より明確にする必要がある。例えば、1つのランの観測夜数を平均して現在よりどれ程増やすのか、等。

・ユーザーの意見をすいあげ、プログラム編成の基本方針を議論できるユーザーズ・ミーティングの設置。

・半年毎のプログラム編成。

・木曾も岡山と同じようにレフェリーとしてはどうか。

・昭和60年度より試行するのか。

・秋の各種シンポジウムまでに、WG案を作成できるよう当WGで引き続き検討することとした。

(文責：若松)

1984年5月23日

昭和59年度 光学天文連絡会活動方針

1. 活動の目標

昨年7月の臨時総会において、海外適地に可能な限り大口径の望遠鏡を設置するための努力を行うという決意がされ、その線にそった一連の作業により、大型光学赤外線望遠鏡計画案が確定された。本年度はその計画案の予算化を含めた具体化を進める年である。望遠鏡建設を直接担当すると考えられている東京天文台の作業グループと密接な協力関係を保ちながら、1). 目標とする天文学と具体的な望遠鏡・観測装置の仕様決定、2). 目指すべき共同利用体制案の策定、3). 望遠鏡・観測装置の新技術の研究・開発、4). 諸外国との各種の国際協力による研究、開発、作業、5). 大型望遠鏡完成・稼動までの観測・研究体制および補助望遠鏡の検討、を強力に推進する。

2. 活動計画

1) 総会(5月)、運営委員会の開催および会報発行

2) シンポジウム、研究会などの開催

(1) 光学天文連絡会が主体となって行うもの

A). 大型光学・赤外線望遠鏡で行う天文学

B). 各種のワーク・ショップ

例. 広視野化とその天文学、高分散分光とその天文学、赤外線性能アップのため、望遠鏡の技術問題

(2) 関連グループとの協力で行うもの

A). 岡山ユース・ミーティングに対応するワーク・ショップ

B). 技術シンポジウム

C). シュミット・シンポジウム

D). 星の研究会

ハ) 各WGの活動

(1) 体制WG

・当面の岡山・木曾の観測プログラム編成の検討

・大望遠鏡と岡山・木曾・堂平・花山・飛騨、上松の関係とその体制の検討

・目指すべき共同利用体制の検討

(2) 望遠鏡WG

・東京天文台望遠鏡WGおよび他グループの作業状況の把握と会員への報告

・会員の意見の集約

・作業分組を全国規模で行う場合のmanagement

・記録の整理

(3) 国際協力WG

・観測施設の海外設置に関する連絡・折衝

・諸外国との観測的研究の協力関係の確立

二) PR活動

大型光学・赤外線望遠鏡ばかりではなく、光学・赤外線観測に関連するあらゆる事柄を推進してゆく。そのために全体的な計画を各方面に認識してもらい、積極的な支持が得られるようなPR活動を行う。

決 議

大型光学赤外線望遠鏡の建設推進について

光学天文連絡会

光学天文連絡会は「光学赤外線天文学、特に銀河及び星の形成過程の研究を中心とした天文学の飛躍的な発展を図るために、観測条件の優れた国際的適地に、大型高性能の光学赤外線望遠鏡を早急に建設する」必要性を認識し、その実現に向けて建設計画を強力に推進してゆく決意をした。

望遠鏡の基本仕様は口径5m以上の一枚主鏡を用いた経緯台様式とし、光学・赤外線波長域において高い解像力と広い視野(目標値:角分解能 $\sim 0.1''$ 、視野 $\geq 0.5^\circ$)を有することを特色とする。設置場所としてはハワイ島マウナ・ケア観測所が最適である。

この望遠鏡は我が国の他の波長域での大型装置(宇宙電波望遠鏡、X線衛星など)と並んで全国の研究者により利用される天文学分野での欠くべからざる基幹設備であって、国際協力の推進にも大いに貢献する設備である。

我々は1990年代初頭には定常観測が開始できるようあらゆる努力を払う覚悟である。

1984年5月23日

東京天文台内望遠鏡WG会合日誌(定例:水曜日の16時より)

- オ31回 3月21日
大型望遠鏡設計の問題点整理. 鏡面精度. 駆動精度
- オ32回 3月28日
限界等級と鏡面精度. スパッフル観測報告(馬場)
- オ33回 4月4日
広視野検討サブグループ報告. 鏡厚と支持の関係についての計算
- オ34回 4月11日
分光器の検討
- オ35回 4月18日
IAUコロキウム報告(磯部). サイト・テストの問題
- オ36回 4月25日
La Palma島訪問報告(富田)
- オ37回 5月2日
鏡. 鏡筒の支持方式に関する計算式. 望遠鏡の次案を描くための検討
- オ38回 5月9日
IR観測に対するカセグレン穴の影響
- オ39回 5月30日
望遠鏡の次案の検討
- オ40回 6月6日
望遠鏡の構造. ドームの検討. 光学系の検討. 運用時旅費の積算

海外渡航

- 富田弘一郎(東京天文台)
4月7日~23日 München IAU Symp. 79 & La Palma島現地調査
- 中田 好一(東大・理)
5月16日~7月3日 Univ. of California
寿岳 潤(東京天文台)
5月25日~7月5日 Cerro Tololo Inter-American Obs.
期間中6月14.15日はNNTT Open Meeting(Baltimore)に出席
- 若松 謙一(岐阜大工短大)
5月25日~8月5日 Cerro Tololo Inter-American Obs.
- 田村 真一(東北大・理)
6月5日~10月4日 Observatoire de Paris
10月5日~'85年4月3日 Univ. of Illinois

会員の異動

- (脱会)
外山 清高 1984年5月
- (新入)
吉岡 一男 北海道教育大学旭川分校 旭川市北門町9丁目 電話 0166-52-9067
〒070
大坪 順次 機械技術研究所 (858) 茨城県新治郡桜村並木1-2
〒305
西川 淳 東京大学理学部天文学教室 電話 03-812-2111
〒113 東京都文京区弥生2-11-16 (内線 4268)
岡崎 彰 津田塾大学
連絡先 東京天文台
浮田 信治 東京大学東京天文台野辺山宇宙電波観測所 電話 0267-98-2831
〒384-13 長野県南佐久郡南牧村野辺山
中野 武宣 京都大学理学部物理第2教室 電話 075-751-2111
〒606 京都市左京区北白川追分町 (内線 3844)
中村 卓史 京都大学理学部物理第2教室 電話 075-751-2111
〒606 京都市左京区北白川追分町 (内線 3850)
蜂巣 泉 京都大学工学部航空工学教室 電話 075-751-2111
〒606 京都市左京区吉田本町 (内線 5812)
- (異動)
花輪 知幸 名古屋大学理学部物理学教室A研 電話 052-781-5111
〒464 名古屋市千種区不老町 (内線 6693)
大道 卓 自宅
〒206 多摩市
比田井昌英 東海大学文明研究所 電話 0463-58-1211
〒259-12 平塚市北金目1117 (内線 3653)
近藤 正明 専修大学商学部
- 高瀬文志郎 国学院大学文学部
〒157 世田谷区
宇山喜一郎 自宅
〒191 日野市
石田 五郎 自宅
〒115 北区赤羽西1-23-11
中村 泰久 東京都立駒場高等学校
〒114 北区滝野川
西田 実継 神戸女子大学 電話 078-731-4416
〒654 神戸市須磨区東須磨青山2-1
門 正博 京都大学理学部宇宙物理学教室
〒606 京都市左京区北白川追分町

*** 事務局より ***

5月より事務局は東京大学理学部天文学教室でお引き受けすることになりました。当教室の会員はスタッフが少なく、実働可能は2人しかおりません。そのため東京天文台にも応援をお願いすることでスタートしました。役割分担は田中 済（東大・理 TEL 03-812-2111 内線4262）が事務局長、尾中 敬（同、内線4261）が会計、安藤裕康（東京天文台 TEL 0422-32-5111 内線204）が書記です。みな有能ではありますが、マンパワーとしてはいかにも微力です。皆様のご協力をお願いいたします。

光天連も4年目をむかえ、望遠鏡計画の大筋が決定したこともあってステディな運営をめざす年であると考えます。幸い、会費改定を認めていただき、最低限、会報や通信費を目前でまかなえる条件がととのいました。しかしながら、本会はボランティアによって成り立っている会ですので会員の皆様の協力がなくてはやっていけません。

会員の声欄は継続したいと考えております。内容はニュース、提案、討論などなんでも結構で、そのまま掲載することを原則としますが、長さや内容に問題がある場合は書きなおしをお願いすることがあります。長さは800字程度とし、できるかぎりそのまま印刷にまわせるような形でお送り下さい。

海外渡航欄は当方でも情報を集めますが、原則として、ご本人よりの通知をもとにいたしますので、通知がない分は掲載漏れが生ずることがありますことをご了承下さい。所属や連絡先に変更があった方はすみやかにご通知下さい。通知いただかないと会報などがとどかないおそれがあります。

*** 会費納入のお願い ***

すでにお支払い下さった方以外には郵便振替用紙（東京4-131044 光学天文連絡会）を同封しました。会費は本年より

一般 年2000円 学生 年1000円

です。早めにご納入下さるようお願いします。

光学天文連絡会 Group of Optical and Infrared Astronomers (GOPIRA)

会報 No.31 1984年6月20日発行

発行者 東京大学理学部天文学教室内 光学天文連絡会事務局 田中 済

〒113 東京都文京区弥生2-11-16 TEL 03-812-2111 内線4262

郵便振替口座 番号 東京4-131044 光学天文連絡会